

## 「たすけて」と言えない若者たち

～薬にハマる理由と背景～

近年、生きることが辛い若者たちが人に助けを求めることができず、リストカットなどの自傷行為に加えて、薬物にハマる傾向が指摘されています。昔から問題視されている麻薬や覚醒剤に限らず、違法ではない市販薬のオーバードーズ（OD=過剰服薬）や、エナジードリンクなどによるカフェインの過剰摂取なども社会問題となっています。

なぜ若者は自分を傷つけるのか。そして薬物にハマってしまうのか。「ダメ。ゼッタイ。」と伝えるだけでは解決できない若者の心理や背景を探り、寄り添いのあり方を模索します。

配信期間：立教187年（令和6年）9月25日（水）～10月31日（木）

※ひのきしんスクールホームページから動画配信いたします。配信期間中は  
何回でもご視聴いただけます

※視聴には事前申し込みが必要になります

対 象：テーマに関心がある方

参 加 費：無料

締 切 日：9月20日（金）

内 容：◆基調講演「自傷と市販薬 OD の理解と援助」・インタビュー

まつもと としひこ  
松本 俊彦 氏（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所薬物依存研究部長、  
薬物依存症センター長）

※裏面に講師の経歴などを記載しております

### ◆パネルディスカッション

【パネリスト】まつもと けいこ  
松本 恵子 氏（須佐分教会長夫人、保護司）

とうい のぶお  
東井 申雄 氏（本部准員、公認心理師、臨床心理士）

【司 会】うだ  
宇田 まゆみ （ひのきしんスクール運営委員）

### ●お申し込み

ホームページのお申し込みフォームに必要事項を入力の上、送信してください。

※視聴には申し込みが必要になります。今回はオンライン配信のため、ホームページからのみ、お申し込みいただけます。

お申し込みくださった方には、9月24日（火）に「視聴用アドレス（URL）」をお知らせいたします。

ひのきしんスクール事務局（布教部社会福祉課内）

〒632-8501 天理市三島町 1-1

TEL 0743-63-2314 FAX 0743-63-7266

Eメール h-sc@tenrikyo.jp

ひのきしんスクール

検索

QRコード▶



<https://fukyo.tenrikyo.or.jp/h-sc/>

まつもと としひこ  
松本 俊彦 氏

【経歴】

1993年佐賀医科大学卒業。横浜市立大学医学部附属病院での初期臨床研修修了後、国立横浜病院精神科シニアレジデント、神奈川県立精神医療センター医師、横浜市立大学医学部附属病院精神科助手、医局長を経て、2004年に国立精神・神経センター（現、国立精神・神経医療研究センター）精神保健研究所 司法精神医学研究部専門医療・社会復帰研究室長に就任。以後、同研究所 自殺予防総合対策センター自殺実態分析室長、同副センター長などを歴任し、2015年より同研究所 薬物依存研究部 部長に就任。さらに2017年より国立精神・神経医療研究センター病院 薬物依存症センター センター長を兼務。

【資格】

精神神経学会精神科専門医・指導医、精神保健指定医、精神保健判定医

【学会等役員兼務】

日本精神科救急学会理事  
日本社会精神医学会理事  
日本アルコール・アディクション医学会理事  
日本学術会議アディクション分科会特任連携委員

【受賞歴】

2006年 星和書店「精神科治療学」優秀論文賞  
2011年 日本犯罪学会学術奨励賞  
2017年 日本アルコール・アディクション医学会 柳田知司賞  
2021年 Neuropsychopharmacology Reports Topic Award 2021  
2022年 第70回 日本エッセイストクラブ賞  
2023年 更生保護法人日本更生保護協会 第25回 瀬戸山賞

【主著】

「自傷行為の理解と援助」（日本評論社，2009）  
「自傷・自殺する子どもたち」（合同出版，2014）  
「アルコールとうつ、自殺～『死のトライアングル』を防ぐために」（岩波書店，2014）  
「自分を傷つけずにはいられない」（講談社，2015）  
「もしも「死にたい」と言われたら―自殺リスクの評価と対応」（中外医学社，2015）  
「薬物依存症」（筑摩書房，2018）  
「誰がために医師はある―クスリとヒトの現代論」（みすず書房，2021）  
「世界一やさしい依存症入門」（河出書房新社，2021）